

令和7年「まほろば会秋の見学旅行」資料

「淡路・阿波・讃岐の三国をめぐる旅」

令和7年11月7日（金）～9日（日）

まほろば会

はじめに

今年は、例年にも増して厳しい暑さが続き、その影響を受けてか各地で大雨等の甚大な被害が相次ぎました。被害にあわれた方々に、謹んでお見舞い申し上げます。

さて当会は、昨年「まほろば会創立50周年記念行事」として「今城塚古墳と秋の奈良を巡る旅」を敢行し、参加していただいた皆様から喜んでいただきました。

今回の見学旅行は、当会の見学先としては本当に久しぶりの「四国」をターゲットとしました。「四国」といっても、もちろんすべてを回ることは日程的に難しいので、「淡路・阿波・讃岐」に限定して見学することとしました。

旅行初日は、JR 西明石駅に集合して「北淡震災記念公園野島断層保存館」「五斗長垣内（ごっさかいと）遺跡」などを見学し、徳島で宿泊です。

二日目は、まず午前中に「徳島県立博物館」そして縄文後期の「矢野遺跡」「徳島市立考古資料館」を見学します。バス車中では、昨年7月に当会幹事をご勇退された「高川 博さん」による「徳島県（阿波）の朱（しゆ）」のお話ををしていただく予定です。午後には、四国八十八か所一番札所「靈山寺（りょうぜんじ）」「屋島」を巡り、宿泊は「高松」です。

そして最終日、日本の歴史上貴重な古墳群と言われ昭和60年に国の史跡にも指定されている「岩清尾山（いわせおやま）古墳群」をたっぷりと見学し、「讃岐国分寺跡・史料館」「善通寺」「丸亀城」を巡って、JR 坂出駅で解散です。

今回の見学旅行も、どうぞ皆さん十分にご堪能ください。

幹事一同

令和7年（2025年）まほろば会「秋の見学旅行（淡路・阿波・讃岐の三国をめぐる旅）」行程

＜日程＞ 2025年 11月7日（金）～9日（日） 2泊3日

＜集合＞ 11月7日（金） 11時45分 JR山陽本線「西明石駅」西口改札を出たところ（新幹線で来られる場合、新幹線の改札出たところすぐ）

＜行程＞

11月7日（金）

北淡（ほくだん）震災記念公園野島断層保存館 ⇒ 五斗長垣内（ごっさかいと）遺跡 ⇒ 伊弉諾（いざなぎ）神宮 ⇒ ホテル

※宿泊ホテルは「サンルート徳島」（電話：088-653-8111）

11月8日（土）

※8時50分：ホテル1階ロビー集合（各自キー返却） ⇒ 9時：貸切バス乗車

徳島県立博物館 ⇒ 徳島市立考古資料館（矢野遺跡）⇒ 昼食（ホテルサンシャイン徳島：徳島弁当）

⇒四国八十八か所一番札所「靈山寺（りょうぜんじ）」 ⇒ 屋島 ⇒ ホテル ⇒ 「とといち」で宴会（飲み放題付）

※宿泊ホテルは「コンフォートホテル高松」（電話：087-861-8411）

11月9日（日）

※7時50分：ホテル1階ロビー集合（各自キー返却：荷物は預けたまま）⇒ 8時：ホテルからタクシー分乗にて「峰山公園」へ ⇒ 石清尾山（いわせおやま）古墳群 同ガイダンスセンター ⇒ ホテルに戻り「荷物」を受け取って貸切バス乗車 ⇒ 讃岐国分寺跡・史料館 ⇒ 鰐鮪の四國「四國館」で昼食（釜揚げうどん定食） ⇒ 善通寺 ⇒ 丸亀城

<解散>11月9日（日）15時45分ごろ JR坂出駅

<緊急連絡先>

西村 090-3876-9491 千葉 090-9310-6966 天野 090-6213-4487 篠野 080-5170-0281

<旅行参加者>

小川 克己・北村 滋規・小林 繁治・坂井 裕幸・白石 崇・関谷 一郎・高川 博・瀧川 実・田中 春秋・田原 敏行・田畠 和隆・
田畠 裕之・徳弘 奈美・豊田 亀次郎・長嶋 良一・堀田 信良・安田 力

(以下幹事) 天野 静一郎・上原 一信・斎多 穀志・千葉 友希代・恒成 憲一・西村 徹(会長)・篠野 浩志

(敬称略・五十音順・24名)

注：四国にはツキノワグマの個体は20数頭確認されています。ただし今回の行程で回る先については熊は確認されておりません。

【北淡（ほくだん）震災記念公園】

この公園は、1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災の甚大な被害を後世に伝え、防災の大切さを語り継ぐために設立されました。特に、震災によって地表に現れた「野島断層」は、国の天然記念物に指定されており、その断層のずれをありのままの姿で保存・展示しています。当会でも訪問したことがあります、本年は、阪神・淡路大震災から30年となりますので、再訪します。

【見どころ】

野島断層保存館：

震災で露出した野島断層を約140メートルにわたり保存・展示しています。断層の断面を観察できるトレンチ展示や、実際に触れることができる断層もあります。

震災遺構である「神戸の壁」も移設・保存されており、当時の被害の大きさを物語っています。

地震の揺れを体験できるコーナーでは、震災の恐ろしさを体感できます。

メモリアルハウス：

震災で被災した家屋が保存されており、当時の状況をリアルに感じることができます。

URL: <https://www.nojima-danso.co.jp/>

この公園は、自然の力の恐ろしさを感じるとともに、大地震の記憶を風化させず、次の災害への備えを考えるための貴重な機会となるでしょう。

【五斗長垣内（ごっさかいと）遺跡】

今からおよそ 1800～1900 年前、弥生時代後期に鉄器づくりが行われていた村の跡地です。1995 年の台風被害による農地整備の際に発見され、2012 年には国の史跡に指定されました。当時の鉄器生産技術の様子が詳しくわかる、国内最大規模の鉄器生産遺跡として大変貴重な場所です。たまたま 2025 年 10 月の兵庫県の県民だよりの表紙に以下引用の記事（[兵庫県／広報紙「県民だより兵庫」](#)）が掲載されており、これからさらに人気が高まるスポットになるかも知れません。

【記事引用】「2005（平成 17）年、淡路市北部の播磨灘を見晴らす丘陵の農地から、およそ 1900 年前の弥生時代後期の集落跡が発見されました。地名にちなみ五斗長（ごっさ）垣内（かいと）遺跡と名付けられた一帯は、後の調査で朝鮮半島から船で運ばれてきた貴重な鉄を加工する国内最大規模の鉄器生産集落だったことが判明。12 年に国史跡となり、今年 7 月に一部が追加指定されました。現在は史跡公園として整備され、地元の人たちが復元した鍛冶工房などを自由に見学できるほか、出土した鉄器や石道具を展示する活用拠点施設では当時の社会をうかがい知ることができます。（淡路市教育委員会社会教育課）」

【見どころ】

史跡公園：当時の鉄器生産工房を復元した「ごっさ鉄器工房」や、複数の復元鍛冶工房建物を見学できます。復元された堅穴建物からは、当時の人々の暮らししぶりや技術を垣間見ることができます。

遺跡に関する DVD や、出土した鉄器・石器のレプリカなどを展示。弥生時代の淡路島の環境や、鉄器がどのように作られ、利用されていたのかを学ぶことができます。遺跡内で発見された鉄器や石器のほか、高い熱で地面が赤く変色した炉跡なども展示されており、当時の鉄器製造の様子を具体的にイメージできます。URL: <http://gossa-awaji.jp/remains/>

この遺跡は、古代国家の成立に重要な役割を果たした鉄器文化が、畿内よりも早く淡路島に取り入れられていたことを示しています。

【伊弉諾（いざなぎ）神宮】

伊弉諾神宮は、日本最古の神社として知られ、『古事記』や『日本書紀』の「国生み神話」に登場する伊弉諾尊（いざなぎのみこと）と伊弉冉尊（いざなみのみこと）の二柱の神様をお祀りしています。国生みの神功を終えられた伊弉諾大神が、晩年を過ごされた「幽宮（かくりのみや）」の跡地に鎮座しており、淡路国一宮として古くから人々に崇敬されてきました。

【見どころ】

本殿・拝殿:悠久の歴史を感じさせる荘厳な建築様式をご覧ください。なお、今回の訪問時期は、大きな修理が終わったところで、大変きれいになっているはずです。

夫婦大楠:樹齢約900年を誇る県指定天然記念物です。二株の木が合体して一本になったこの大楠は、夫婦円満、安産、良縁の象徴として信仰を集めています。

陽の道しるべ:太陽の運行と有名神社との関係を示す円形のモニュメントです。

せきれいの里:夫婦円満の象徴とされる「せきれい」にちなんだ場所です。

御朱印:社務所にていただけます（受付時間 9:00～17:00）。オリジナルの御朱印帳も授与されています。

お守り・絵馬:縁結びや夫婦円満、安産祈願にちなんだお守りや絵馬が人気です。

伊弉諾神宮は、日本の成り立ちに深く関わる神話の舞台であり、パワースポットとしても知られています。夫婦円満、安産、良縁などを願う多くの方々が訪れます。神聖な雰囲気の中で、心静かにお参りください。

徳島県立博物館



徳島県立博物館とは、1990年11月3日に開館した徳島県徳島市八万町向寺山にある文化の森総合公園の通称「四館棟」内に設置されている博物館です。徳島および関連諸地域に関する自然史・人文系資料を展示しています。

今回の見学旅行で、高川さんからご紹介をいただく「徳島県（阿波）の朱」の話は、那賀川流域の阿南市にある「若杉山遺跡」（弥生時代後期～古墳時代）で発掘された、朱の原料である「辰砂」のお話で、この博物館で「出土物」が見られるようです。（別紙資料「徳島県（阿波）の朱」）

矢野遺跡・徳島市立考古資料館



上空から見た徳島市国府町の矢野遺跡



多数の竪穴住居跡が見つかった縄文時代の生活面



徳島市立考古資料館

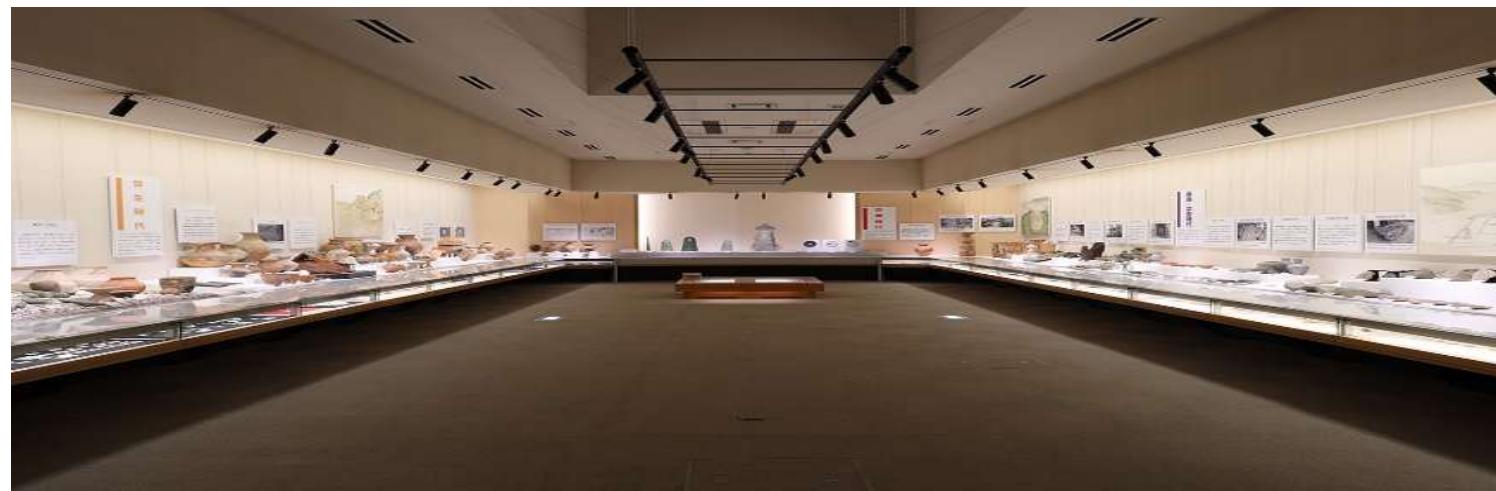
矢野遺跡は、鮎喰川左岸の徳島県徳島市国府町矢野・中・西矢野にかけて、気延山東側山麓に広がる扇状地と沖積地域に立地する、縄文時代集落と弥生時代集落、さらに北東に所在した古代（律令期）阿波国府に関連する官衙遺構・阿波国分寺跡をも内包する非常に大きな複合遺跡です。史跡指定（または登録）はされていないが、出土した「矢野銅鐸」と通称される弥生時代銅鐸と、縄文時代後期の出土遺物 160 点が国の重要文化財に指定されています。

なお、矢野遺跡の西側に隣接する気延山山麓には県指定史跡「矢野の古墳」などを含む古墳群（気延山古墳群）や中世の矢野城などが分布し、阿波史跡公園として整備され「徳島市立考古資料館」が置かれています。

縄文時代集落は、1994年（平成6年）～1998年（平成10年）の発掘調査で発見され、竪穴建物19軒などの遺構のほか、縄文土器・石器等の多くの遺物が出土しました。西日本の縄文時代集落の中では最大級のものとされ、出土遺物の中では、土製円板に穿孔して両目と口を表現した仮面が注目されました。これら縄文時代後期の出土遺物160点は、2019年（令和元年）7月23日に「徳島県矢野遺跡出土品」として国の重要文化財に指定されました。

弥生時代集落は、1992年（平成4年）から始まった徳島南環状道路（徳島外環状道路）建設に伴い発掘調査されました。徳島県内最大級の弥生時代集落であり、弥生時代中期から末にかけての竪穴建物跡が100軒近く検出されています。集落内からは、1992年（平成4年）12月18日に銅鐸埋納坑が検出され、柱穴や建物跡が伴っており、銅鐸は木箱に納められて埋納されたと見られます。このような検出状況は全国的にも類例が少なく、出土した突線袈裟櫛文銅鐸（とせんけさだすきもんどうたく）は、「矢野銅鐸」と通称され、1995年（平成7年）6月15日に国の重要文化財に指定されました。

徳島市立考古資料館とは、徳島県徳島市国府町西矢野にある徳島市が管理運営する資料館で、徳島市内で発掘された縄文時代から平安時代にかけての考古資料を収蔵・保管、展示しております。阿波史跡公園内に位置しています。



四国八十八か所一番札所：靈山寺（りょうぜんじ）



山門



発心の門



本堂の釣り灯籠

靈山寺は徳島県鳴門市にある高野山真言宗の寺院。山号は竺和山（じくわさん）、院号は一乘院（いちじょういん）。本尊は釈迦如来。四国八十八か所第一番札所。とくしま 88 景に選定されています。日本遺産の第一弾として 2015 年 4 月 24 日に選ばれた 18 件（15 番）のうちの一つとして「四国遍路」-回遊型巡礼路と独自の巡礼文化- が選ばれ、当寺は四国八十八か所の 88 の寺院と阿波遍路道・土佐遍路道・伊予遍路道・讃岐遍路道で構成されたその文化財の一つです。

寺伝によれば奈良時代、天平年間（729 年～749 年）に聖武天皇の勅願により、行基によって開創。弘仁 6 年（815 年）に空海（弘法大師）がここを訪れ、21 日間（三七日）留まって修行したという。その際、天竺（インド）の靈鷲山で釈迦が仏法を説いている姿に似た様子を感得し天竺の靈山である靈鷲山を日本、すなわち和の国に移すとの意味から竺和山靈山寺と名付け、持仏の釈迦如来を納め靈場開創祈願をしたといいます。その白鳳時代の身丈三寸の釈迦誕生仏が残っており、また、本堂の奥殿に鎮座する秘仏の釈迦如来は空海作の伝承を有し、左手に玉を持った坐像であり、2014 年（平成 26 年）に 4 か月間開帳されました。室町時代には三好氏の庇護を受けており、七堂伽藍の並ぶ大寺院として阿波三大坊の一つとして栄えたが、天正 10 年（1582 年）に長宗我部元親の兵火に焼かれ、その後徳島藩主蜂須賀光隆によってようやく再興されたが 1891 年（明治 24 年）の出火で、本堂と多宝塔以外を再び焼失したが、その後の努力で往時の姿を取り戻し第 1 番札所としてふさわしい景観になっています。

屋 島



サンポール高松のシンボルタワーより



屋嶋城の縄文遺構



北嶺登山道（九合目）

屋島（やしま）は、香川県高松市の北東に位置する、硬質の溶岩に覆われた平坦面が侵食された残丘。南北に長い台地状の地形。屋島の名称は屋根のような形状に由来し、高松市のシンボルになっています。また、古来から瀬戸内海の海路の目印となる特徴物であり、海外交流交易海路に面した要衝でありました。屋島は江戸時代までは陸から離れた島であったが、江戸時代に始まる塩田開発と干拓水田は後の時代に埋め立てられ、陸続きになりました。全体の大きさは南北に約5km、東西に約2km、南嶺の標高は292m、北嶺の標高は282m、平坦な頂面の周囲に急な崖を持ちます。

663年に起こった白村江の戦いの後に「屋嶋城」が築かれ、また、南嶺山上に唐僧・鑑真が創建したとの伝承をもつ「屋島寺」があり、東岸の入江の一帯は古来の「檀ノ浦（讚岐檀ノ浦）」で、治承・寿永の乱（源平合戦）における重要な局地戦の一つである「屋島の戦い」がここを戦場として繰り広げられたことは、あまりにも有名です。山麓の浦生（うろ）集落の鶴羽神社境内遺跡では、弥生時代の後期に土器製塩が開始され、古墳時代中期に築かれた長崎ノ鼻古墳に至り、山上では、弥生時代中期の高地性集落の痕跡があり、飛鳥時代の屋島城（屋嶋城）築城に至ります。

【石清尾山（いわせおやま）古墳群】

同古墳群では、全国でも珍しい古墳が集まっています。わくわくしますね～

例えば～

☆日本に 1% しかない積石塚古墳（全て石で土無し、4~5 世紀）が多い

☆確実な双方中円墳（キャンディのような形）は同古墳群にある 3 基のみ（猫塚古墳、鏡塚古墳、稻荷山北端古墳）

☆剖抜式石棺（1 石で棺の身と蓋を作った、ツタンカーメンが有名）が見られる（石船塚古墳）

☆国史跡指定の古墳が 16 基：石船塚古墳（最初）、北大塚古墳、北大塚東古墳、北大塚西古墳、鏡塚古墳、小塚古墳、姫塚古墳、猫塚古墳、石清尾山 9 号墳、石清尾山 2 号墳、

石清尾山 13 号墳、鶴雄神社 4 号墳、稻荷山姫塚古墳、稻荷山北端古墳、稻荷山南塚古墳、稻荷山南塚北古墳

同古墳群は 4 世紀から 7 世紀にかけて作されました。日本にある古墳は 16 万基でコンビニの約 3 倍、同古墳にも約 200 基の古墳があります。大和政権と繋がりを持つつ独自の古墳が築かれたようです。土で築いた盛土墳と石で築いた積石墳に分けられます。尚、古墳時代の初めに既に前方後円墳が出現したらしく先進的な地域だったと思われます。

（これは、私【恒成】の私見ですが、大室古墳群、剣崎長瀬西古墳群等、方墳の積石塚古墳は百濟からの馬匹生産のための渡来人の古墳の可能性もあるのかなと思います。と言うことは、この地域でも馬匹生産が行われていた可能性はありそうですが、高川さん如何でしょう？）

【各古墳の概要】

- ① 北大塚古墳：全長 40m の前方後円墳。隣接した北大塚東・西の小型古墳を従える。前者は郡中唯一の方墳
- ② 鏡塚古墳：全長 70m の双方中円墳。猫塚古墳と共に、全国的にも稀な墳形をとる。尾根最高所に立地
- ③ 石船塚古墳：全長 57m の前方後円墳。前方部が細長く伸びた、柄鏡式の前方後円墳。剖竹式石棺を持つ。
- ④ 小塚古墳：全長 17m の前方後円墳。最も小型の前方後円墳で、尾根道が墳丘上を通っているため荒廃。
- ⑤ 姫塚古墳：全長 43m の前方後円墳。前方部が向く西が低いため、より多く石を積み外形を整える。
- ⑥ 猫塚古墳：全長 43m 双方中円墳。鏡等多量の副葬品が出土したが盗掘により破壊されている。
- ⑦ 石清尾山 2 号墳：径 10m の盛土墳。近隣の 3 号墳と共に、横穴式石室墳。比較的保存状態良好。
- ⑧ 石清尾山 9 号墳：全長 27m の前方後円墳。北大塚古墳とは谷を隔てて向かい合う。
- ⑨ 石清尾山 13 号墳：径 9m の盛土墳。横穴式石室の天井石が取り除かれている。須恵器等が出土。

《 特別史跡 讃岐国分寺跡・資料館 》

国分寺の造営

741年（天平13年）、聖武天皇は各國ごとに官営の僧寺と尼寺を建てることを命じ、正式名称は「金光明四天王護國之寺」、尼寺を「法華滅罪之寺」と定めた。当時、都があった平城京にはその頂点として「東大寺」「法華寺」を建立した。国分寺の造営は各國司（中央から派遣された国府の長）の責任下で推進され、760年ころ（天平宝字年間）には完成したようです。

讃岐国分寺

讃岐国分寺もその際に建立された国分寺の一つで、奈良時代の高僧である「行基」によって開基されたと伝えられています。

発掘調査によって、東西約220m、南北約240mに及ぶ寺域に築地塀・回廊・鐘楼・僧房跡・掘立柱（ほったてばしら）建物等の跡などが確認されました。

現在、四国八十番札所讃岐国分寺境内に残る金堂跡や塔石の礎石と合わせて大官大寺式（だいかんだいじしき）配置をした概要が明らかになりました。

現本堂は鎌倉中期の建物で旧講堂跡の上に再建されたものと推察します。<国の重要文化財>

大官大寺：現在の明日香村と権原市にまたがる地域に位置した。飛鳥・藤原地域で巨大な古代寺院の一つで国家の象徴的な寺院

発掘は1983年から1986年にかけて実施され、併せて保存整備事業を行っています。

讃岐国分寺跡資料館・史跡公園

現在は史跡公園として整備され、1/10縮尺の石造伽藍配置模型や
発掘当時のまま保存されている僧坊跡の礎石を観ることができます。

史跡地東側に保存整備事業の一環として資料館を設立、1/20
の精巧な金堂レプリカや発掘調査で出土した遺物を展示しています。

・・・讃岐国分尼寺跡・・・

国分寺跡の北東約2キロに位置しています。中心部には
現在法華寺が建っており、境内には金堂跡の礎石の一部が
残っています。

（参考：讃岐国分寺資料館資料 高松市HP 文化遺産オンライン 全国文化財総覧）

担当 簿野

【善通寺】

善通寺は、香川県善通寺市に位置し、真言宗善通寺派の総本山です。

弘法大師空海の生誕地として知られ、四国八十八箇所霊場の第 75 番札所でもあります。

寺院名は、空海の父である佐伯善通(さえき の よしみち)の名に由来しています。

歴史と創建

善通寺の創建は、空海が唐から帰朝した後の 807 年(大同 2 年)に始まり、父から土地の寄進を受けて建立されました。

長安の青龍寺を模して建てられたとされ、当初は金堂、大塔、講堂など 15 の堂宇がありました。

鎌倉時代には空海の生家跡に「誕生院」が建立され、江戸時代までは善通寺と誕生院は別々の寺院でしたが、明治時代に一つに統合されました。

伽藍と文化財

善通寺の境内は、伽藍のある東院と誕生院(西院)の二つに分かれています。

東院には金堂や五重塔が立ち並び、西院は空海の誕生地とされています。

善通寺には、国宝である「金銅錫杖頭」や「一字一仏法華經序品」をはじめ、金堂や五重塔など多くの重要文化財が残されています。特に金堂は、四国地方では珍しい本格的な禅宗様仏殿の形式を持ち、五重塔は江戸時代の技法による塔婆建築の到達点を示すものとして価値が高いとされています。

その他

善通寺市は、南に大麻山、西に五岳山が連なる自然豊かな環境にあり、温暖な瀬戸内海性気候に恵まれています。

市内には、善通寺の他にも宮が尾古墳や王墓山古墳など、大小 400 基以上の古墳が点在し、「古墳のまち」としても知られています。

また、明治時代には陸軍第 11 師団が置かれ、軍都としても発展しました。現在も陸上自衛隊善通寺駐屯地があります。

毎年 11 月 3 日には、弘法大師にちなんだ「善通寺空海まつり」が開催され、多くの人で賑わいます。

【丸亀城】

丸亀城は、香川県丸亀市にある標高約 66 メートルの亀山に築かれた平山城で、別名「亀山城」とも呼ばれています。

築城 400 年以上の歴史を持ち、国の史跡に指定されています。現存する十二天守の一つでありながら、天守の高さは約 15 メートルと日本最小規模です。一方で、総高約 60 メートルの石垣は日本一の高さを誇り、「石垣の名城」として知られています。

歴史

丸亀城の歴史は、室町時代初期に細川頼之の家臣である奈良元安が砦を築いたのが始まりとされています。

その後、豊臣秀吉の家臣である生駒親正が 1597 年(慶長 2 年)に本格的な築城を開始しましたが、1615 年(元和元年)の一国一城令により廃城となりました。1641 年(寛永 18 年)に山崎家治が丸亀藩主となり再築を開始し、17 年の歳月を経て 1660 年(万治 3 年)に京極高和の時代に竣工しました。以後、明治時代まで京極氏が城主を務めました。

特徴と見どころ

石垣: 丸亀城の最大の特徴は、その石垣の高さと美しさです。「石垣の名城」と呼ばれる所以であり、総高約 60 メートルの石垣は日本一の高さを誇ります。特に、扇を開いたような緩やかな曲線を描く「扇の勾配」と呼ばれる石垣は、江戸時代初期の高度な石垣技術を今に伝えています。石垣には、自然石をそのまま積み上げる「野面積み」、石を削って加工した「打ち込みハギ」、さらに精巧に加工した石を隙間なく積み上げる「切り込みハギ」など、様々な積み方が見られます。また、本丸には石垣をさらに石垣で保護するために「ハバキ石垣」という工法も用いられました。三の丸北側の石垣は 20 メートル以上の高石垣で、見応えがあります。

天守: 現存する木造天守閣は 3 層 3 階建てで、高さは約 15 メートルです。現存する天守の中では日本最小規模ですが、均整のとれた美しい姿をしています。唐破風や千鳥破風といった意匠も優れており、国の重要文化財に指定されています。天守からは市街や瀬戸内海を一望できます。

縄張り: 本丸を隅に置き、その周りを渦を巻くように建物が建てられている「渦郭式(かかくしき)」の縄張り(設計図)も特徴的です。これにより、本丸へ攻めるためには幾重にも迂回する必要があり、防御性が高められています。

現存する建造物: 天守のほか、大手一の門、大手二の門、藩主玄関先御門、番所、御籠部屋、長屋が現存しており、うち天守、大手一の門、大手二の門は国の重要文化財に指定されています。大手一の門は、城を守るための仕掛けである石落としなども見学できます。